

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	三遠南信及び中京圏との交流推進事業	会計	一般会計	事業No.	68	施策順No.	82-002
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-9-11-6		
政策	8 交流と連携が活力を生むまちづくり				課等名	企画課	
施策	82 三遠南信・中京圏の連携推進	事業期間	開始	終了			

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口 (H22.9.30推計人口)	107259	106630	105691	105324	105000	
	意図	三遠南信・中京圏との交流・連携を深める。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	三遠南信・中京圏との交流に参加している市民の割合	9.2	8.8	8.9	9	9	10	A
	三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合	73.1	74.5	75.1	77	75	80	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	年末に南信州で三遠南信サミット、しんきんサミット等が開催されると同時に、住民団体連携組織「南信州交流の輪」が設立されたことを受けて、市民に広く三遠南信に関する情報を提供することができた。22年度は前年と同様の達成度にとどまったが、次年度に向けては高い目標が達成できると期待できる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	歴史的、文化的、経済的につながるの深い遠州、東三河地域や中京圏に軸足を置き、人・物・情報の交流を推進する事業。 *道州制の導入に向けた区域案が示される中、南信州地域が将来にわたり持続し発展していくためには、三遠南信及び中京圏との積極的な交流活動や具体的な連携事業を進めることが重要である。このため、各種会議等に参加することにより三遠南信及び中京圏との結びつきを強めていくとともに、新しく設立した住民団体連携組織を中心として市民レベルでの交流・連携の促進や支援を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 三遠南信地域交流ネットワーク会議等のSENA構成団体との連携 2 大学機関、研究組織等が主催する会議への参加 3 遠州、東三河、中京圏の情報収集(地域新聞、住民団体等からの情報提供による情報収集) 4 市民交流活動への支援、情報提供、会議への参加 5 公式ブログを活用した情報提供	1 情報共有・事業連携の回数 2 参加回数 3 収集回数 4 支援回数 5 情報提供回数	1 3回 2 3回 3 12回 4 14回 5 2回
23年度実施計画	1 SENA構成団体(三遠南信地域交流ネットワーク会議等)との連携、事業への参加 2 学術機関、関係機関等が主催する会議及び研究会への参加 3 遠州及び東三河地域、中京圏の情報収集(地域新聞、住民団体等からの情報提供による情報収集)と情報発信 4 市民交流活動への支援、情報提供、会議等運営事務 5 公式ブログ「三遠南信エリア情報」を活用した情報提供 6 遠州及び東三河地域の住民団体連携組織との交流及び連携支援	1 情報共有・事業連携の回数 2 参加回数 3 収集及び発信回数 4 支援等の回数 5 情報掲載回数 6 住民団体の交流連携の回数	1 回 2 回 3 回 4 回 5 回 6 回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		440	311	233	
計(A)		440	311	233		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			311			

4 事業に対する市民や議会の意見

三遠南信地域及び中京圏との交流・連携を強化し、融合に向けた検討を進めるべきとの意見がある。(市民・議会) 地域相互間の住民交流を進めるとともに、三遠南信地域における付加価値向上に向けた取り組みを検討していく必要があるという意見がある。(市民)
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民や行政が、三遠南信・中京圏域と共通の課題を認識し、協力し補完しあう。	施策の成果指標又はムトス指標	三遠南信・中京圏との都市間交流に参加している市民の割合 三遠南信・中京圏との連携や交流が重要だと思う市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	三遠南信サミットの開催、三遠南信地域の情報発信、地域資源活用のための社会実験等を通じて、圏域内の交流・連携強化につながった。その中から、浜松市消防ヘリコプターの応援協定の締結や社会雇用創造事業の実施等、新たな地域づくりに向けた地域の融合が進みつつある。また、三遠南信地域の大学との知のネットワーク化が進みつつある。		
	後期に向けた課題	三遠南信地域を中心とした他地域と、医療・産業・教育・文化等を通してより実用的な連携が必要である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	三遠南信地域連携ビジョンの推進(三遠南信地域連携ビジョン推進会議への参加・各種事業の実施)、大学連携(豊橋技術科学大学サテライトラボ・フィールドスタディ、学輪IIDA)等を実施するとともに、企業立地促進法に基づく三遠南信地域基本計画の策定や三遠南信自動車道の早期開通に向けた要望活動を行ってきた。		
	後期に向けた課題	平成20年代後半の開通を目指す三遠南信自動車道や大学連携等の実施、三遠南信地域「新・連携組織」による広域連携の実践等、活動分野が多岐にわたる中で、圏域全体をどのように進行管理していくかが課題である。また、三遠南信を中心として、他地域との交流にも取り組んでいく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	地域内の多様な主体が中心となり、それぞれが連携することで、ネットワーク化が進み、効率的に事業推進が進んだ。また、三遠南信地域ネットワーク会議や飯田下伊那地域の市町村、南信州広域連合の連携によって、それぞれの費用負担が抑えられた。		
	後期に向けた課題	三遠南信地域ネットワーク会議や三遠南信地域地域整備連絡会議へのそれぞれの負担金支出があるため、平成24年度に予定されている「新・連携組織」への移行において、一本化する等の改善が必要である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が三遠南信地域の広域連携に重点的に取り組むことで、当地域の交流人口が増加し、地域産業の活性化につながっている。その他、浜松市消防ヘリコプターの応援協定締結や社会的企業の雇用創出事業の実施が実現し、三遠南信地域に関わる市民が増加した。		
	後期に向けた課題	圏域内の市町村が一体となって進められるような取り組みが不足している。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①行政、経済界、大学、住民等の多様な主体が連携して進めている三遠南信地域連携ビジョンを中心にして交流を進め、教育文化・防災・産業・観光・交通の分野において、それぞれ連携事業が進められた。 ②三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)を中心にして、ビジョンの推進と事業の推進を進めた。		
	後期に向けた課題	①三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)に関わる主体が、新・連携組織への機能移行を進め、新組織の中でそれぞれの役割を果たすことが求められる。三遠南信地域を中心にして、中京圏や全国の地域との交流を進めることが必要である。 ②各種ネットワークを活用して、交流の場を拡げていくための取り組みが必要である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	三遠南信地域連携ビジョンが策定されたことで、三遠南信地域に軸を置いた広域連携が実践されている。また、このような広域連携の母体ができたことで、多方面にわたる連携事業の実施につながった。中京圏においても、名古屋市覚王山のアンテナショップ出店や飯田名古屋企業懇話会等の交流が深まり、各分野における交流が推進された。		
	後期に向けた課題	三遠南信地域を中心とした他地域と、医療・産業・教育・文化等を通してより実用的な連携が必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------